

あ の 小浜市阿納体験民宿組合

おぼまし
(福井県小浜市)



■受賞者の概要

活動年数：11年 活動日数：年間73日
活動を担う人数：30人
年間参加者：4,851人

■写真の説明

- ・(写真上) 阿納地区全景
- ・(写真左下) スタッフの指導による魚さばき体験
- ・(写真右下) シーカヤックの海の体験

■連絡先 〒917-0105 福井県小浜市阿納10-15
☎0770-54-3313

■受賞の内容

阿納地区の漁業者は、大半がトラフグの養殖とともに民宿を経営してきたが、景気低迷等を受けてフグの需要が伸び悩み、経営の不振、後継者の確保、ひいては集落の人口減少が課題となっていた。そこで、地域の強みである「漁業・養殖」と「宿泊」を活かし、漁村の魅力を観光資源として売り出すために、地域の漁家民宿13戸が連携し、2006年に「小浜市阿納体験民宿組合」を設立した。翌年には「釣り堀」、「魚さばき施設」、「バーベキュー場」で構成される漁業体験施設「ブルーパーク阿納」を整備し（2009年にリニューアル）、教育旅行の誘致を本格的に開始した。

提供する体験プログラムは、県内外の小中学生を対象に、釣り堀でマダイを釣り、釣った魚をさばいて食べる一連のコースをメインとした体験学習を実施している。また、沖合の養殖イカダや餌やりの見学等を行う漁船クルーズ、同地区の主要農産物である梅を活用した梅もぎ体験・梅ジュース作り、同地区のお寺での座禅体験など、地域の関係者が一体となって体験メニューを開発・提供している。

組合員（漁家）は、毎年20～30校の県外の中学校や旅行代理店等を訪問し、受け入れ体制や体験メニューを説明する等、積極的にPR活動も展開している。新たなメニュー開発にも力を入れており、2014年度からは新たにシーカヤックを導入している（2016年度に50艇を追加し、現在は100艇体制）。漁業や加工等体験では、命をいただくことの大切さを伝えたり、人と人との交流を深めたりするように工夫し、小中学生が各民宿に宿泊する際には、夜に一日の体験を振り返って感じたこと等を民宿の主人や女将と語らう場を設けている。

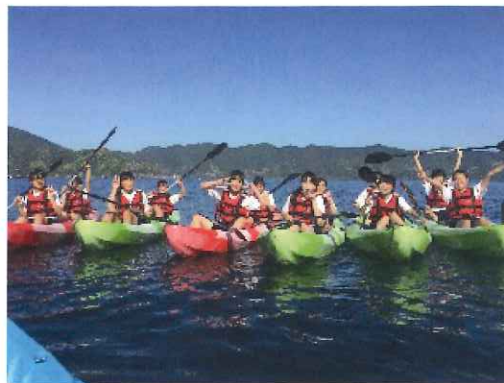
2016年度から訪日外国人の受け入れ体制を

整えるため、組合員の語学能力向上のための会話研修や、モニターツアーを実施している。また、近隣の地区で「たこカゴ漁」や地域の伝統食品である「サバのへしこ（糠漬け）づくり」体験を実施していることから、広域的な連携や地域一帯を様々なメニューが揃った観光体験のホットスポットとしていきたい。

体験学習の利用者数は、2007年の183人が2016年には4,851人と大幅に増加しており、この体験学習が牽引する形で、当地区の漁家民宿への宿泊者数は順調に増加している。漁家経営が改善した結果、現在、組合員13戸のうち11戸は後継者が確保されている。

また、各学校を受入れる際は、必ず「入村式」と「退村式」を行い、若手の組合員が挨拶をし、受け入れる側からのメッセージを伝えている。当地区では後継者が確保されている一方、そうした若手は社会に出た経験が少ないことから、このような機会は人前で話す格好のトレーニングとなっている。つまりこうした活動は、子供たちに漁村の魅力を伝えるだけでなく、受入れ側の感受性や会話・表現力を高める等、組合員自身が成長する場にもなっている。

なお、当施設を体験で訪れた県外の中学生が小浜市のファンになり、県立若狭高等学校海洋科学科（旧：小浜水産高等学校）にこれまで5人が入学した。中には市内に定住したいと希望する者もあり、当施設での体験学習はIターンや定住化の促進にもつながっている。



漁村集落が一丸となって、漁業・トラフグ養殖・民泊・観光体験漁業と複数の収入源確保を進めている。漁業者13戸中11戸に後継者あり。新たな体験メニューのためシーカヤック100艇導入と臨機応変な取り組みを実施しつつ入村式・退村式での若手の挨拶など若手組合員の育成システム構築をしっかりと確立していると高く評価された。